

直前東大英語発展演習

【1 回目】★



問題

【1】

解答例

発展途上国の飢餓を根絶するという名目で多国籍企業が利益を追求しているが、世界の飢餓は食糧不足というより政治的混乱などの多様な要因によるため、多国籍企業の論理で発展途上国の農民を駆逐するやり方に疑問を呈するべきであろう。〔109 字〕

別解

発展途上国援助という名目で多国籍企業が遺伝子工学を導入し、地域古来の農業を奪っている。しかし世界の飢餓の原因は政治などの理由によるので、それら企業の論理を疑い、理解や同情を持った平和的解決を模索すべきである。〔104 字〕

全訳

食糧をもっと増やせば世界の飢餓が解決される可能性があるとはいえ、遺伝子工学が世界のやせ細った農地を回復させたり、食糧生産を増大させたりするという確たる証拠はまだ見当たらない。モンサント社、デュポン社、ダウ社や他の多国籍企業が世界の種子供給を買い占めている速さを考慮に入れて、遺伝子工学を推し進める主たる誘因は経済的貪欲、つまり多国籍企業が特許権を通して世界の種子供給の支配権を手に入れる試みではないかと疑う人々もいる。

その一方で、持続不可能であり潜在的に危険な農業慣習が発展途上国で広がっている。発展途上国では、指導者たちは、しばしば世界銀行や国際通貨基金のプレッシャーを受けて、多国籍企業に協力することを求められている。その間に、多国籍企業は彼らの農業技術の新しいマーケットを発展途上国に創設し、また低コストで（しばしば奴隷労働を使って）食糧を生産し、その食糧を先進国の顧客に売って莫大な利益を上げることができるのである。かくして発展途上国の植民地時代の搾取は続いていく。

世界の飢餓を研究したことのある人なら誰でも、世界に8億人の餓死寸前の人々が存在し、また毎日3万人近くの子供が餓死していく主な理由は、食糧不足それ自体によるものではなく、次のような多様な要因によるものであることを知っている。それらは、政治的混乱、お粗末な食糧配給、地方及び中央レベルでの腐敗した政府、人口過剰と過放牧による土壌の劣化、多国籍企業による田舎の農地の買収と結果として生じる土地の環境に合わせて発展してきた地域農業文化への脅威、そして最後に、零細農業による生活手段を奪われた何十万という農民たちとこれらの農民たちの都会への移住、である。この最後のものは、農民たちがますます貧乏になり権利や権益を奪われている中で大がかりに演じられている悲劇だ。農民たちはしばしば祖先が何世代にもわたって耕作してきた土地を離れ、都会の中心に出て不慣れた仕事に就こうとするが、都会の中心にはどのみち大勢の失業者がいるのが普通なのだ。こうして誇り高い農民たちが、飢えた、しばしば餓死寸前の物乞いになってしまうのである。これはドミニク・ラビエールの『喜びの都市』に痛烈に描かれている。

世界の飢餓の真の解決はこういった悪弊に取り組んで初めて見出されるものだろう。私たちは、テクノロジー以上に平和、人道主義的指導力、思いやり、憐れみ、常識を必要としているのであり、地球上の農地を、害虫や嵐、干ばつや病気に持ちこたえることができる遺伝

学的に優れた穀物を栽培する非常に広大な土地へ転換することによって、世界の飢餓を根絶できるという多国籍企業の主張をそのまま信じるわけにはいかないのだ。

注

- ℓ. 2 ◇ deplete ～「～を枯渇させる」
- ℓ. 16 ◇ per se 「それ自体が；正確な意味においては」（ラテン語）
- ℓ. 17 ◇ turmoil 「騒ぎ；騒動；混乱」
- ℓ. 18 ◇ degradation 「格下げ；低下；退廃」
- ℓ. 23 ◇ disenfranchise 「市民権を奪う」
- ℓ. 24 ◇ forebears 「先祖」通例複数形。
- ℓ. 26 ◇ poignantly 「痛烈に」
- ℓ. 30 ◇ eradicate ～「～を撲滅する」

【配点】 25 点

【配点の目安】

- ①多国籍企業が～利益を追求している。（6 点）
- ②発展途上国の飢餓を根絶するという名目で（6 点）
- ③しかし世界の飢餓は、食糧不足というより政治的混乱のような多様な要因によるため、（7 点）
 - 第3段落第1文のセミコロン以下「政治的混乱やお粗末な食糧供給などの多様な要因」のようにしても可。
 - △ ただし、単純な「食糧不足」ではなく複数の要因がからむという内容がわかっていなければ－2 点。
- ④多国籍企業の論理で発展途上国の農民を駆逐するやり方に疑問を呈するべきであろう。（6 点）
 - 最後の段落「多国籍企業の主張をそのまま信じるわけにはいかない」の箇所を結論としていれば可。

①～④の要素が不足している場合は、それぞれ配点分減点

指定字数の 90 語未満、もしくは 110 語を超えるもの －3 点

単語レベルの誤り －1 ～－2 点

【2】

解答

- (1) 1 e 2 c 3 b 4 g 5 f 6 d
- (2) ① b (3) d

全訳

相互に影響し合うものの集まりはすべて1つの系と考えることができる。ここで言う「もの」は、ほとんどどんなものでもよく、物体、有機体、機械、過程、考え、数、あるいは組織を含む。ものの集まりを系と考えることにより、私たちは次のようなものに注意を向けることができるようになる。系を意味のあるものにするには部分に何が含まれる必要があるのか、部分は相互にどのように作用しあうのか、系全体は他の系とどのように関わるのか、な

どだ。系の視点から考えることは、各部分は、系の残余の部分と関係づけてはじめて完全に理解できることを暗にほのめかしている。

生態系や太陽系であれ、教育制度や金融制度であれ、生理システムや気象システムであれ、系を画定する場合は、部分相互の関係が何らかの意味をなすように、部分を十分に含めておかねばならない。そして何が意味を成すかは目的によって異なってくる。e 例えば、森林の生態系のエネルギーの流れに興味がある場合なら、太陽熱入力と死んだ有機体の分解を含めておかねばならないだろう。しかし捕食動物と餌動物の関係にだけ興味があるなら、太陽熱入力と有機体の分解は無視することは可能だろう。地球の潮の干満をごく大雑把に説明することだけに興味があるなら、地球と月以外の他のすべての天体を無視することができるだろう。だが、もっと正確な説明をしようとするなら、太陽を系の一部として考察の対象にすることが必要になるだろう。

系の境界をうまく画定すると、現象を理解しているかしていないかの違いをはっきりさせることができる。c 例えば、燃焼している間でも質量が保存されていることは長い間認識されていなかったが、それは燃焼によって発生するガスが重さを測定する系の中に含まれていなかったからだ。また人々は、ウジ虫は生ごみから自然に発生すると思いついていたが、卵を産むハエを系から除外した実験が行われるに及んで、その考えが誤りであることがわかった。

ある境界内にあるすべてが1つの系となっていると考えることは、何らかの種類の影響と行動を探す必要性があることを示唆している。b 例えば、系の入力と出力を考えてみるといいだろう。空気や燃料がエンジンに入力されると、排気ガスや熱や機械的仕事は出力される。情報や音響エネルギーや電気エネルギーが電話システムに入力されると、情報や音響エネルギーや熱が出力される。そして系のいかなる部分であれ、そこに何が入力され、そこから何が出来されるかを探してみると、ある部分の出力は他の部分のための入力になっていることに気づく。g 例えば、生態系の植物の出力である果物と酸素は生態系の他の動物たちのための入力になっている。また動物の出力である二酸化炭素とふんは植物のための入力として役立つことがある。

系の出力のある部分は系自身の入力に含まれることもある。一般的に、そのようなフィードバックは系の内部で起こっていることを制御する働きをする。フィードバックはすでに起こっていることをさらに助長することもあるし、阻止することもあり、修正してまったく異なったものにすることもある。f 例えば、スピーカーから出てくる拡声音の一部はマイクロフォンにフィードバックされ、それからさらに増幅されるなどして、やがてシステムが過負荷に至り、おなじみのフィードバックであるキーキーという音になる。しかし系の内部でのフィードバックはいつもこのように迅速ではない。d 例えば、ある区域のシカの個体数が1年で増加した場合、冬の乏しい食糧供給への需要がそれだけ増えることになるから、翌年には餓死率の増加をもたらす、その結果その区域のシカの個体数が減ることもある。

系の構成部分が相互に影響し合う方法は、物質の移動によるばかりでなく、情報の移動による場合もある。そのような情報のフィードバックは、普通は系の一部として比較のメカニズムを含んでいる。例えば、温度自動調整器は部屋の測定された温度と設定値を比較し、その差が大きすぎる場合は暖房装置か冷房装置のいずれかのスイッチを入れる。もう1つの例

は次のようなものだ。政府の計画が公式に発表される以前にそれについてのニュースの漏洩があると、その計画を変更させる反応が誘発されることがあり、人々は漏洩された計画と自分たちが望む計画とを比較し、それに応じて計画を支持したり、計画に反対したりするのである。

系のいかなる部分もそれ自体が系と考えられる。つまり、それ自身の部分を内部に持ち、相互作用を行う下位の系と考えられる。シカはある生態系の部分であると同時に、それ自身が相互に作用する器官と細胞を持つ系であると考えられる。そして器官と細胞のそれぞれも系と考えられる。これと同じように、どんな系も、影響を与えたり与えられたりする、より大きな系の一部である可能性が高い。例えば、州政府は群の政府と市の政府を構成要素として含む系と考えられるが、州政府はそれ自体が国家の統治システムの1つの構成要素にすぎない。

系どうしは相互に排他的ではない。系どうしは非常に密接に関係しているので、ある系のすべての部分と他の系のすべての部分を分ける境界線を引くことはまったく不可能である。そのため、通信システム、輸送システム、社会システムは相互に広く関係している。1つの構成要素、例えば、航空機のパイロットは、上の3つのシステムすべての系になり得るのである。

注

選択肢 e

◇ decomposition 「分解；腐敗」

◇ predator/prey 「捕食動物／獲物」

本文

ℓ. 17 ◇ maggot 「ウジ虫」

選択肢 g

◇ droppings 「落下物；(遠まわしに)(鳥獣の)ふん」

選択肢 f

◇ amplify ～ 「～を拡張する；増幅する」

本文

ℓ. 30 ◇ thermostat 「サーモスタット；温度自動調整器」

【配点】 15 点

(1) 各2点 (2) 2点 (3) 1点

【3】

解答

(2) are (3) beside (5) into (9) take (10) of

解説

(1) 「文章を書く時、私たちは読み手を想像し、意識するしないにかかわらずその読み手に対して文章を書く」

audience は「聴衆；観客」という意味で覚えているかもしれないが、ラジオに対

しては listener, テレビなら viewer, 本などの場合なら reader と同じ意味にもなる。
write for の for は‘対象’を表す。取り除くべき語はない。

- (2) 「もし入学審査委員会を血の通わない, 細かいことにこだわる大学教官とか, しかつめらしい顔をした, 古くさい死刑執行人の集団のように想像してしまうと」

picture が名詞だとするとその後に名詞句が続くことになるが, それでは文法的に説明がつかない。are を削除して picture を動詞として用いると, picture A as B で「AをBとして心に描く→AはBのようなものだろうと想像する」という意味を表すことができる。「入学審査委員会を血の通わない…な集団として想像すると」となり, 意味が通る。

- (3) 「あなたの書くエッセイそのものも血の通わない, 細かいことにこだわる, あるいは真面目くさった感じになってしまうだろう」

beside oneself は「我を忘れて; 逆上して; 気が狂って」という意味で, 文脈に合わないことは明らか。ここでは beside を削除して themselves だけにし, your essays を強調するという形にすると意味が通る。nitpicky は「細かいことにこだわる; あら捜しをするような」。

- (4) 「もしこのような過ちを犯せば, 徐々にではあるが確実に, 自分のエッセイからユーモア, ウィットや創造性をともに抜き取ることになってしまうだろう」

drain という動詞はやや難しい単語であるが, drain A out of B で「BからAを抜き取る」という意味になる。straight は「じかに; まともに」という意味を表す副詞として使われている。取り除くべき語はない。

- (5) 「(ユーモア, ウィット, 創造性は) まさに成功には欠かせない要素そのものなのである」

into はダッシュの前の文と合わせて考えても文脈上まったく意味を成さない。ダッシュにはいろいろな用法があるが, ここでは「すなわち」という‘同格’の意味を表し, 直前の the humor, wit, and creativity を言い換えている。the very の very は形容詞で「まさにその」の意味。取り除くべき語は into。

- (6) 「この章では, いずれあなたのエッセイを読み, 評価することになる実在の人たちのことをよく知るために少し時間をかけることにする」

take time to … は「(人が) …するのに時間をかける; 時間をかけて…する; (物事が) …するのに時間がかかる」という意味で使われる。get familiar with ~ は「(人が) ~のことをよく知るようになる」という意味。取り除くべき語はない。

- (7) 「(つまり) 彼らはどのような人であるか, エッセイの中に何を求めているか, 何をにつけることに飽き飽きしているか」

look for ~ in essays で「エッセイの中に~を求める」。be tired of …ing で「…することに飽きる; …することにうんざりする」。取り除くべき語はない。

- (8) 「あなたのエッセイを読む人と彼らが期待していることを明確に理解しておかないと」

have a clear understanding of ~ は「~をはっきりと理解する」(= understand ~ clearly) という意味である。ここも削除すべき語はない。

- (9) 「不安と神経過敏によって頭の中に生まれる紋切り型の委員会に対してエッセイを書

くという危険を冒すことになる」

risk には名詞と動詞があるが、「…するという危険を冒す」と表す場合、名詞として使えば take the risk of …ing, 動詞として使えば risk …ing という形になる。よって take を削除する。

- (10) 「その結果、必然的にエッセイは精彩を欠いた的外れなものになるのである」

動詞 result を用いて「A (=原因) が B (=結果) をもたらす」という因果関係を示す場合、A result in B と B result from A という2通りの表し方がある。ここでは前者が使われている。「～を欠く；～が欠けている」は lack を他動詞として用いて lack ～ とするか、自動詞として用いて be lacking in ～ のように表すことができるが、前者の他動詞 lack の方が好んで使われる傾向にある。ここは他動詞として用いて of を取り除く。

【配点】 35 点

選択肢の指摘：各 3 点，取り除くべき語の指摘：各 4 点。全て正解で計 35 点。

ただし，取り除くべき語のスペルミスは各－1 点。

【4】

解答

- (1) 子供たちに早期から 2 言語教育を施すこと。[20 字]

- (2) ① いわゆる「臨界期」の問題

別解 いわゆる「言語形成期」の問題

- ② 早ければ早いほどよい

- ③ いわゆる言語エリート論

解説

- (1) ℓ. 1～2 の第 1 文，ℓ. 6～8 の第 5 文をまとめればよいが，端的に言えば「2 言語併用主義」であるので，それを指定回数にまとめればよい。

- (2) ① the question of 'critical period' の of は同格を示す。critical period は「危険な時期」ではなくて，「臨界期」を表す。「臨界期」とは「ある発達段階が通常起きる時期」のことで，a period during someone's development in which a particular skill or characteristic is believed to be most acquired のこと。ここでは具体的には「言語形成期」をさす。

なお，この critical の意味は critical の基本義が「2つの異なった状態のどちらになるかを決定する」ということだと知っていれば容易に理解できる。

Ex. a critical period in the history (歴史の危機的時代)

He is in hospital in a critical condition. (彼は入院中で危篤だ。)

a critical battle (天下分け目の決戦)

- ② The + 比較級 ～，the + 比較級 … 「～すればするほど，その分だけますます…」

初めの the がある程度を示し，後の the がその程度だけを照応する。正確には初めの the は関係副詞で，後の the は指示副詞。

この構文では⑥のように省略が生ずることも多い。

Ex. *The more haste, the less speed.* (急がば回れ。)

Come, my lads, it's no use thinking of it; *the sooner done the better.*

(さあ皆の者、考えていても何にもならぬ。するのは早ければ早いほどよいのだ。)

- ③ elitism 「エリート支配〔思想；意識；主義〕」 (= The belief that certain persons or members of certain classes or groups deserve favored treatment by virtue of their perceived superiority, as in intellect, social status, or financial resources; the attitude that society should be governed by an elite group of individuals)

本文の elitism は英語という言語に対する elitism である。「英語ができる、ないしは英語を母語とするものに社会的に優位性が与えられる」という考えが言語エリート主義である（よく英語がわかれば世の中何でもわかるといった視野の極端に狭い考え方もその1つであろう）。そしてその言語エリート主義が是か非か論じるのが③の the elitism argument である。

全訳

子供は常に2言語を話すことへの用意ができて生まれるという考え方を、この辺りで振り返ってみるのは価値のあることである。地球上の子供のおよそ3分の2は、2言語環境で成長し、その能力を成長させている。いったん、定期的に母語以外の言語にさらされると子供がその言語を吸収する行為にはある種の自然さが伴うが、それは成人にとってうらやましい限りである。この能力はティーンエージャーになると消え去ってしまうようで、なぜこのようなことが存在しなくてはならないのかという問題（④いわゆる「臨界期」の問題）に多くの学術的な議論が向けられてきている。しかしながら、外国語習得の問題を真剣に考えようとする場合、原則は1つには「⑥早ければ早いほどよい」でなくてはならない、という考えには広い意見の一致がある。そして、地球語の習得に関して、その問題が真剣に考えられる場合、③いわゆる言語エリート論は雲散霧消してしまうのだ。

注

ℓ. 1 ◇ reflect on = think seriously about

◇ children are born ready for bilingualism

準補語（子供が生まれた際の状態を示す）

ℓ. 2 ◇ bilingualism 「2言語併用能力；常に2言語を話すこと；2重言語主義」

< bilingual = ① speaking two languages fluently ② expressed in two languages

ℓ. 3 ◇ competence = ability

◇ it = a bilingual environment

◇ naturalness < natural = not made

◇ assimilate = take into the mind; understand thoroughly

この文脈では learn ~ (～を身につける；マスターする) の意で用いられている。

ℓ. 4 ◇ expose = leave ~ uncovered or unprotected

◇ which is the envy of adults : which の先行詞は There is a naturalness with which they assimilate another language, once they are regularly exposed to it の内容。

◇ envy = ① the feeling of discontent and ill-will caused by another's good fortune,

wealth, success, advantages, etc. ② [the envy of ～の形で] a person or thing that inspires a feeling of envy

ℓ. 5 ◇ die away = lose strength; disappear

ℓ. 6 ◇ this : 10 代に達すると子供の bilingual 能力が消えてしまうこと。

◇ critical period 「臨界期」ある発達段階が通常起きる時期。その発達段階はその時期に起きないとそれ以降では起きにくくなるとされる。

= a period during someone's development in which a particular skill or characteristic is believed to be most readily acquired

◇ There is, however, widespread ～と考える。

○ widespread = spread among a large number or over a large area

ℓ. 7 ◇ take ～ seriously 「～を深刻に考える」

ℓ. 8 ◇ with reference to = in reference to = in relation to = in regard to = concerning

ℓ. 9 ◇ acquisition = the action of acquiring < acquire = come to have; learn or develop (a skill or quality)

◇ a global language 「地球語」

◇ elitism = the belief that a society should be run by an elite; the feeling of being superior to others associated with an elite

ℓ. 10 ◇ evaporate = cease to exist

【配点】 25 点

(1) 12 点 (2) ① 5 点, ②・③各 4 点

【配点の目安】

(1) 子供たちに早期から 2 言語教育を施すこと。[20 字]

幼いうちから子供に 2 言語教育を施すこと。[20 字]

① 「子供」(3 点)

② 「早期」あるいは「幼いうちから」(4 点)

③ 「2 言語教育」(5 点)

の 3 つのキーワードを含める。

指定字数の 15 語未満, もしくは 20 語を超えるもの - 3 点

単語レベルの誤り - 1 ～ - 2 点

(2) ① いわゆる「臨界期」[「言語形成期」]の問題 (5 点)

○ critical period 「臨界期」「臨界の時期」を「重要な時期」としたのも可。

○ 「危険な時期」としたのも - 2 点

② 早ければ早いほどよい (4 点)

③ いわゆる言語エリート論 (4 点)

○ 「言語」はなくても可。

①, ③の「いわゆる」はなくても可。また, ①の「」の訳に当たる「」がない場合も - 0。



会員番号		氏 名	
------	--	-----	--